

**平成30（2018）年度
研究、教育、社会・学会活動報告書**

1. 研究（本年度のみ）

教員氏名	森崎巧一 (モリサキノリカズ)		職 位	教授	学 位	博士
専門分野						
研究課題	テーマ	デザイン分析支援ツールに関する研究				
	概要	情報デザイン教育を受ける学生が活用しやすいデザイン分析支援ツールについて研究する。				
本年度 研究業績	研究費	総額： 135 万円 内訳：個人研究費 25 万円 / 科学研究費 110 万円 そ の 他 円				
	研究テーマ	デザイン画像解析ツールの開発				
	経過と到達点	現在、共同研究者（本学の小路真木子教授と湘北短期大学の高木亜有子准教授）と共に、デザイン分析支援ツールを開発中である。2018年5月には日本比較文化学会第40回全国大会 2018年度日本比較文化学会国際学術大会においてシンポジストとして研究成果を発表し、同年9月には日本比較文化学会の研究会（仙台）において研究成果を発表した。2019年2月に開催される日本比較文学学会の研究会のワークショップでも最新の研究成果を発表予定である。				

(1) 学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①英文査読論文					
②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文	印象評価のためのシルエット分析ツールの開発（査読中）	2019 年 度（発行 年 月 未 定）	共著	京都経済短期大学 論集（号は未定）	森崎と小路が開発しているデザイン画像解析ツールの一つである「シルエット分析ツール」について報告する内容。この紀要の筆頭著者は小路先生。

⑥紀要研究 ノート等					
⑦学会での 口頭発表、 討論者（デ ィスカッサ ント）	人の印象情報を用いた科学的なデザイン分析手法（印象評価法）の普及とその可能性（シンポジウム：「比較文化の手法」パネリスト発表論題）	2018年5月	単独発表	日本比較文化学会第40回全国大会（2018年度日本比較文化学会国際学術大会）発表抄録、比較文化論（36）7	人の印象情報を用いた科学的なデザイン分析手法である「印象評価」の普及と今後の可能性について発表した。また、現在開発中のWEBアンケートツールや画像解析ツールについても紹介した。
	一対比較WEBアンケートツールと画像解析ツールの開発の報告	2018年9月	共同発表	日本比較文化学会2018年度 東北・関東合同支部例会	モバイル端末などを用いて印象評価アンケートのデータ回収が容易に行える「印象評価WEBアンケートツール」の開発状況と、デザイン画像に含まれる色や形の情報を分析する「画像解析ツール」の開発状況について報告した。

(2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・ 共訳書				
⑨単著書・ 単訳書				

(3) 外部研究資金獲得（競争的資金獲得）

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				

⑪単独研究	森崎巧一	017年8月～ 2019年3月	独立行政法人日本学術振興会 2017年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究活動スタート支援）	本研究は、応募者がこれまで実践してきたデザイン教育を支援する印象評価分析法の精度向上を目指し、主観的になりがちな印象分析に画像解析を導入して、より客観的に印象特徴を説明できる新しい印象評価分析ツールの開発を目指す。
⑫共同研究 （分担研究）				

2. 教 育（本年度のみ）

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
	講義	情報処理概論	情報デザイン論
	演習	ウェブデザイン演習	マルチメディアⅠ、マルチメディアⅡ
	実習		
教育内容・方法 の工夫	◆ 講義科目	<p>コンピュータとデザインの基礎的な理論の講義を行った。授業では印刷物だけでなくマルチメディア教材も活用し、なるべく分かりやすい講義を心がけた。情報処理概論では、学生が受ける資格試験（ITパスポートなど）を意識して、過去問を使った指導を行った。また、期末試験だけでなく中間試験を行って学生の理解度・到達度を探り、学生のITに対する理解力向上に努めた。情報デザイン論では、デザインの初学者でも理解しやすい教科書を選定し、新旧のアートやデザイン、ITなどの話題にも触れながら、デザインとは何か、なぜデザインをする必要があるのか、情報をデザインするとはどういうことなのか、などについて深く考える講義を行った。</p>	
	◆ 演習科目	<p>WEBサイト制作、CGイラスト制作、写真の加工・編集、コンピュータミュージックの制作など、デジタルデザインについて広範囲に指導した。本年度は、新たな教科書を選定してそれを活用し、デザインについてより深く、そしてより分かりやすい指導を心がけた。そして、学生が興味を持つテーマ（アニメーションや写真、映像、音楽など）を探りながら授業を展開した。以上により、学生が多様なデザインに対して理解を示し、積極的に制作に取り組むことができるようになったと思われる。</p>	
	実習科目		
	◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。）		

（1）課外活動

②

①研修旅行 国内	
②研修旅行 国外	

3. 社会・学会活動（本年度のみ）

（1）公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長	
②委員・アドバイザー	

（2）講演会

分 類	活動・講演の概要
③講演者・登壇者	日本比較文化学会第40回全国大会（2018年度日本比較文化学会国際学術大会）でのシンポジウムの発表者（シンポジウム：「比較文化の手法」パネリスト発表）（2018年5月19日）

4. 特記事項（本年度のみ）

--